

詩吟教本

(天の巻)

- | | | |
|------|---------------|-------------------|
| 2、 | 赤間が関舟中の作 | 伊形靈雨 (いがた れいう) |
| 3、 | 青の洞門 | 網谷一才 (あみたに いっさい) |
| 4、 | 青葉の笛 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 5、 | 阿部野 | 広瀬旭荘 (ひろせ きょくそう) |
| 5 5、 | 暁に発す | 月田蒙斎 (つきた もうさい) |
| 6、 | 生田に宿す | 菅 茶山 (かん ちゃざん) |
| 7、 | 岩崎谷の洞に題す | 杉 聴雨 (すぎ ちょうう) |
| 8、 | 潮来の夕 | 角光嘯堂 (かくみつ しょうどう) |
| 9、 | 逸題 | 勝 海舟 (かつ かいしゅう) |
| 10、 | 逸題 | 篠原国幹 (しのはら くにもと) |
| 11、 | 逸題 | 山内容堂 (やまのうち ようどう) |
| 12、 | 稻叢懷古 | 太宰春台 (だざい しゅんだい) |
| 13、 | 古に擬す | 河野鉄兜 (こうの てつとう) |
| 14、 | 烏衣巷 | 劉 禹錫 (りゅう うしやく) |
| 15、 | 烏江亭に題す | 杜 牧 (とぼく) |
| 16、 | 雨後登楼 | 积 絶海 (しゃく ぜっかい) |
| 17、 | 海に泛ぶ | 王 守仁 (おう しゅじん) |
| 18、 | 越中覽古 | 李 白 (りはく) |
| 19、 | 宴に侍して恭しく賦す | 元田東野 (もとだ とうや) |
| 20、 | 江戸各裏雑詩 | 頼 杏坪 (らい きょうへい) |
| 21、 | 易水送別 | 駱 賓王 (らく ひんのう) |
| 22、 | 遠山 | 欧陽 修 (おうよう しゅう) |
| 23、 | 埃及懷古 | 塩谷節山 (しおのや せつざん) |
| 24、 | 汪倫に贈る | 李 白 (りはく) |
| 25、 | 桜祠に遊ぶ | 広瀬旭荘 (ひろせ きょくそう) |
| 26、 | 太田道灌蓑を借るの図に題す | 作者不詳 |
| 27、 | 親を夢む | 細井平洲 (ほそい へいしゅう) |
| 28、 | 勸学 | 木戸孝允 (きど たかよし) |
| 29、 | 海南行 | 細川頼之 (ほそかわ よりゆき) |
| 30、 | 春日山懷古 | 大槻磐溪 (おおつき ばんけい) |
| 31、 | 華燭の詩 | 本宮三香 (もとみや さんこう) |
| 32、 | 家兄に寄せて志を言う | 広瀬武夫 (ひろせ たけお) |
| 33、 | 河内路上 | 菊池溪琴 (きくち けいきん) |
| 34、 | 佳賓好主 | 佐藤一斉 (さとう いっさい) |

| | | |
|-----|----------------|--------------------|
| 35、 | 峨眉月月の歌 | 李 白 (りはく) |
| 36、 | 凱旋 | 乃木希典 (のぎ まれすけ) |
| 37、 | 感有り | 山崎闇斎 (やまざき あんさい) |
| 38、 | 寒梅 | 新島 襄 (にいじま じょう) |
| 39、 | 勸学 | 陶 潜 (とうせん) |
| 40、 | 垓下の歌 | 項 籍 (こうせき) |
| 41、 | 花朝澱江を下る | 藤井竹外 (ふじい ちくがい) |
| 42、 | 鏡に照らして白髪を見る | 張 九齡 (ちょう きゅうれい) |
| 43、 | 寒夜の即事 | 寂室元光 (じゃくしつ げんこう) |
| 44、 | 鶴鶴楼に登る | 王 之渙 (おう しかん) |
| 45、 | 夏宵 | 松口月城 (まつげつ げつじょう) |
| 46、 | 勸詠詩 | 太刀掛呂山 (たちかけ ろざん) |
| 47、 | 甲斐の客中 | 荻生徂徠 (おぎゅう そらい) |
| 48、 | 夏日悟空上人の院に題するの詩 | 杜 荀鶴 (と じゅんかく) |
| 49、 | 岳精会教場の詩 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 50、 | 己亥の年 | 曹 松 (そう しょう) |
| 51、 | 菊花 | 白 居易 (はく きょい) |
| 52、 | 金州城下の作 | 乃木希典 (のぎ まれすけ) |
| 53、 | 興を遣るの吟 | 伊達政宗 (だて まさむね) |
| 54、 | 京都東山 | 徳富蘇峰 (とくとみ そほう) |
| 55、 | 暁に発す | 月田蒙斎 (つきた もうさい) |
| 56、 | 金谷園 | 杜 牧 (とぼく) |
| 57、 | 金陵の囟 | 韋 荘 (いそう) |
| 58、 | 金縷の衣 | 杜 秋娘 (と しゅうじょう) |
| 59、 | 金州城外の作 | 谷口廻瀾 (たにぐち かいらん) |
| 60、 | 郷に回って偶ま書す | 賀 知章 (が ちしょう) |
| 61、 | 吟魂碑 | 腹 精龍 (はら せいりゅう) |
| 62、 | 九月十日 | 菅原道真 (すがわらの みちざね) |
| 63、 | 九月十三夜陣中の作 | 上杉謙信 (うえずぎ けんしん) |
| 64、 | 九段の桜 | 本宮三香 (もとみや さんこう) |
| 65、 | 偶感 | 西郷南洲 (さいごう なんしゅう) |
| 66、 | 偶作 | 武田信玄 (たけだ しんげん) |
| 67、 | 偶成 | 朱 熹 (しゅき) |
| 68、 | 偶成 | 松平春嶽 (まつだいら しゅんがく) |
| 69、 | 偶成 | 木戸孝允 (きど たかよし) |
| 70、 | 偶成 | 藤田東湖 (ふじた とうこ) |

- 71、 偶成 新島 襄 (にいじま じょう)
- 72、 桂林荘雜詠諸生に示す (その一) 広瀬淡窓 (ひろせ たんそう)
- 73、 桂林荘雜詠諸生に示す (その二) 広瀬淡窓 (ひろせ たんそう)
- 74、 月夜三叉口に舟を泛ぶ 高野蘭亭 (たかの らんてい)
- 75、 元二の安西に使いするを送る 王 維 (おうい)
- 76、 劍門の道中にて微雨に遇う 陸 游 (りくゆう)
- 77、 訣別 梅田雲浜 (うめだ うんぴん)
- 78、 原爆の孤児 太刀掛呂山 (たちかけ ろざん)
- 79、 庚寅歳晩雜詩 鈴木豹軒 (すずき ひょうけん)
- 80、 江南の春 杜 牧 (とぼく)
- 81、 弘道館に梅花を賞す 徳川景山 (とくがわ けいざん)
- 82、 江月 亀田鵬斎 (かめだ ほうさい)
- 83、 後夜仏法僧鳥を聞く 空 海 (くうかい)
- 84、 胡隱君を尋ぬ 高 啓 (こうけい)
- 85、 事に感ず 于 瀆 (うふん)
- 86、 志を言う 藤田東湖 (ふじた とうこ)
- 87、 獄中の作 橋本左内 (はしもと さない)
- 88、 黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白(りはく)
- 89、 江雪 柳 宗元 (りゅう そうげん)
- 90、 獄中の作 高杉晋作 (たかすぎ しんさく)
- 91、 獄中の作 武市半平太 (たけち はんぺいた)
- 92、 江天の暮雪 釈 龍沢 (しゃく りゅうたく)
- 93、 金剛山 山岡鉄舟 (やまおか てっしゅう)
- 94、 酒に対す 白 居易 (はく きょい)
- 95、 山行 杜 牧 (とぼく)
- 96、 山中の月 藪 孤山 (やぶ こざん)
- 97、 山行同志に示す 草場佩川 (くさば はいせん)
- 98、 山中問答 李 白 (りはく)
- 99、 山中幽人と対酌す 李 白 (りはく)
- 100、 山間の秋夜 真 山民 (しん さんみん)
- 101、 山中即事 市村瓊次郎 (いちむら さんじろう)
- 102、 山中諸生に示す (その五) 王 守仁 (おう しゅじん)
- 103、 三樹の酒亭に遊ぶ 菊池溪琴 (きくち けいきん)
- 104、 山亭夏日 高 駢 (こうべん)
- 105、 裁樹自嘲 袁 枚 (えんばい)
- 106、 塞翁が馬 松口月城 (まつぐち げつじょう)

| | | |
|------|-----------|---------------------|
| 107、 | 嵯峨道中 | 龍 草廬 (たつの そうろ) |
| 108、 | 残月杜月鳥 | 菊池三溪 (きくち さんけい) |
| 109、 | 坂本龍馬を思う | 河野天籟 (こうの てんらい) |
| 110、 | 新年祝いの歌 | 木村岳風 (きむら がくふう) |
| 111、 | 四海波 | 本宮三香 (もとみや さんこう) |
| 112、 | 舟中子規を聞く | 城野静軒 (きの せいけん) |
| 113、 | 諸生と月を見る | 中江藤樹 (なかえ とうじゅ) |
| 114、 | 城山 | 西 道僊 (にし どうせん) |
| 115、 | 失題 | 古荘嘉門 (ふるしょう かもん) |
| 116、 | 至善 | 西 行 (さいぎょう) |
| 117、 | 春夜 | 蘇 軾 (そしよく) |
| 118、 | 春夜洛城に笛を聞く | 李 白 (りはく) |
| 119、 | 小楠公の墓を弔う | 杉 聴雨 (すぎ ちょうう) |
| 120、 | 四十七士 | 大塩平八郎 (おおしお へいはちろう) |
| 121、 | 除夜の作 | 高 適 (こうせき) |
| 122、 | 書懷 | 大橋訥庵 (おおはし とつあん) |
| 123、 | 秋風の引 | 劉 禹錫 (りゅう うしゃく) |
| 124、 | 春暁 | 孟 浩然 (もう こうねん) |
| 125、 | 辞世 | 吉田松陰 (よしだ しょういん) |
| 126、 | 自詠 | 菅原道真 (すがわらの みちざね) |
| 127、 | 慈恩塔に題す | 荊 叔 (けいしゆく) |
| 128、 | 松竹梅 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 129、 | 新築を賀す | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 130、 | 自訟 | 杉浦重剛 (すぎうら しげたけ) |
| 131、 | 児に示す | 陸 游 (りく ゆう) |
| 132、 | 出塞行 | 王 昌齡 (おう しょうれい) |
| 133、 | 秋思 | 許 渾 (きょこん) |
| 134、 | 秋思 | 劉 禹錫 (りゅう うしゃく) |
| 135、 | 秋浦の歌 | 李 白 (りはく) |
| 136、 | 鍾山即事 | 王 安石 (おう あんせき) |
| 137、 | 蜀中九日 | 王 勃 (おうぼつ) |
| 138、 | 秦淮に泊す | 杜 牧 (とぼく) |
| 139、 | 春暁 | 日柳燕石 (くさなぎ えんせき) |
| 140、 | 出郷の作 | 佐野竹之助 (さの たけのすけ) |
| 141、 | 春日偶成 | 夏目漱石 (なつめ そうせき) |
| 142、 | 春簾雨窓 | 頼 鴨厓 (らい おうがい) |

| | | |
|------|---------------|-------------------|
| 143、 | 新涼書を読む | 菊池三溪 (きくち さんけい) |
| 144、 | 新正口号 | 武田信玄 (たけだ しんげん) |
| 145、 | 従軍行 | 王 昌齡 (おう しょうれい) |
| 146、 | 春初感を書す | 安積良斎 (あさか ごんさい) |
| 147、 | 春流 | 北条時頼 (ほうじょう ときより) |
| 148、 | 城東の荘に宴す | 崔 敏童 (さい びんどう) |
| 149、 | 銷夏の詩 | 袁 枚 (えんばい) |
| 150、 | 春行して興を寄す | 李 華 (りか) |
| 151、 | 初夏園中即事 | 菊池三溪 (きくち さんけい) |
| 152、 | 修学 | 夢窓疎石 (むそう そせき) |
| 153、 | 睡起偶成 | 王 守仁 (おう しゅじん) |
| 154、 | 雪中梅を見る | 寺門静軒 (てらかど せいけん) |
| 155、 | 青山詩 | 作者不詳 |
| 156、 | 清明 | 杜 牧 (とぼく) |
| 157、 | 静夜思 | 李 白 (りはく) |
| 158、 | 絶句 | 杜 甫 (とほ) |
| 159、 | 泉岳寺 | 坂井虎山 (さかい こざん) |
| 160、 | 磧中の作 | 岑 参 (しんしん) |
| 161、 | 折楊柳 | 楊 巨源 (よう きょげん) |
| 162、 | 桑乾を度る | 賈 島 (かとう) |
| 163、 | 蘇台覽古 | 李 白 (りはく) |
| 164、 | 宗範二十回忌 | 井村盧江 (いむら ろこう) |
| 165、 | 大楠公 | 徳川景山 (とくがわ けいざん) |
| 166、 | 宝船 | 藤野君山 (ふじの くんざん) |
| 167、 | 太平洋上作あり | 安達漢城 (あだち かんじょう) |
| 168、 | 平の敦盛 | 網谷一才 (あみたに いったい) |
| 169、 | 壇の浦を過ぐ | 村上仏山 (むらかみ ぶつざん) |
| 170、 | 高德桜樹に書するの図に題す | 塩谷節山 (しおのや せつざん) |
| 171、 | 立山を望む | 国分青厓 (こくぶ せいがい) |
| 172、 | 壇の浦夜泊 | 木下犀潭 (きのした さいたん) |
| 173、 | 中庸 | 元田東野 (もとだ とうや) |
| 174、 | 中秋無月母に侍す | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 175、 | 長城 | 汪 遵 (おうじゅん) |
| 176、 | 竹里館 | 王 維 (おうい) |
| 177、 | 中秋の月 | 蘇 軾 (そしよく) |
| 178、 | 中秋月を賞す | 西郷南洲 (さいごう なんしゅう) |

| | | |
|------|--------------------|-------------------|
| 179、 | 長安主人の壁に題す | 張 謂 (ちょうい) |
| 180、 | 早に白帝城を発す | 李 白 (りはく) |
| 181、 | 追悼の詩 | 安達漢城 (あだち かんじょう) |
| 182、 | 田園の楽しみ | 王 維 (おうい) |
| 183、 | 天門山を望む | 李 白 (りはく) |
| 184、 | 常盤孤を抱くの図に題す | 梁川星巖 (やながわ せいがん) |
| 185、 | 冬夜書を読む | 菅 茶山 (かん ちゃざん) |
| 186、 | 頭山立雲伝を読む | 国分青厓 (こくぶ せいがい) |
| 187、 | 独柳 | 杜 牧 (とぼく) |
| 188、 | 藤樹書院に過る | 伊藤東涯 (いとう とうがい) |
| 189、 | 時に憩う | 良 寛 (りょうかん) |
| 190、 | 楠公を詠ず | 日柳燕石 (くさなぎ えんせき) |
| 191、 | 楠公子に訣るるの図に題す | 頼 山陽 (らい さにょう) |
| 192、 | 爾靈山 | 乃木希典 (のぎ まれすけ) |
| 193、 | 日本刀を詠ず | 徳川光圀 (とくがわ みつくに) |
| 194、 | 乃木將軍を挽す | 杉浦重剛 (すぎうら しげたけ) |
| 195、 | 農を憫む | 李 紳 (りしん) |
| 196、 | 野の仏 | 武田静山 (たけだ せいざん) |
| 197、 | 春を探る | 戴 益 (たいえき) |
| 198、 | 花に対して旧を懐う | 積 義堂 (しゃく ぎどう) |
| 199、 | 半夜 | 良 寛 (りょうかん) |
| 200、 | 八幡公 | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 201、 | 母を奉じて嵐山に遊ぶ | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 202、 | 母を奉じて芳野に遊ぶ | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 203、 | 白楽天の江州司馬に左降せらるるを聞く | 元稹 (げんしん) |
| 204、 | 箱根の嶺を過ぐ | 頼 鴨厓 (らい おうがい) |
| 205、 | 馬上偶成 | 高杉晋作 (たかすぎ しんさく) |
| 206、 | 花を惜しむ | 福沢諭吉 (ふくざわ ゆきち) |
| 207、 | 貧交行 | 杜 甫 (とほ) |
| 208、 | 平泉懷古 | 大槻磐溪 (おおつき ばんけい) |
| 209、 | 百忍の詩 | 中江藤樹 (なかえ とうじゅ) |
| 210、 | 不識庵機山を撃つの図に題す | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 211、 | 富嶽 | 乃木希典 (のぎ まれすけ) |
| 212、 | 芙蓉楼にて辛漸を送る | 王 昌齡 (おう しょうれい) |
| 213、 | 富士山 | 石川丈山 (いしかわ じょうざん) |
| 214、 | 楓橋夜泊 | 張 継 (ちょうけい) |

| | | |
|------|---------------|--------------------|
| 215、 | 舟由良港に到る | 吉村寅太郎 (よしむら とらたろう) |
| 216、 | 舟大垣を発し桑名に赴く | 頼 山陽 (らい さんよう) |
| 217、 | 武野の晴月 | 林 羅山 (はやし らざん) |
| 218、 | 重ねて楓橋に宿す | 張 継 (ちょうけい) |
| 219、 | 別詩 | 范 雲 (はんうん) |
| 220、 | 辺詩 | 張 敬忠 (ちょう けいちゆう) |
| 221、 | 法庫門営中の作 | 乃木希典 (のぎ まれすけ) |
| 222、 | 豊公の旧宅に寄題す | 荻生徂徠 (おぎゆう そらい) |
| 223、 | 亡友月照十七回忌辰の作 | 西郷南洲 (さいごう なんしゅう) |
| 224、 | 望湖楼醉書 | 蘇 軾 (そしよく) |
| 225、 | 邨山 | 沈 佺期 (しん せんき) |
| 226、 | 子規を聞く | 正岡子規 (まさおか しき) |
| 227、 | 将に東遊せんとして壁に題す | 釈 月性 (しゃく げつしょう) |
| 228、 | 漫述 | 佐久間象山 (さくま ぞうざん) |
| 229、 | 松島 | 岩溪裳川 (いわたに しょうせん) |
| 230、 | 松島 | 釈 南山 (しゃく なんざん) |
| 231、 | 無題 | 方巖和尚 (ほうがん おしょう) |
| 232、 | 武蔵野を讃う | 土屋忠司 (つちや ただし) |
| 233、 | 名槍日本号 | 松口月城 (まつぐち げつじょう) |
| 234、 | 夜坐 | 藤田東湖 (ふじた とうこ) |
| 235、 | 山の夜 | 嵯峨天皇 (さが てんのう) |
| 236、 | 山 | 王 安石 (おう あんせき) |
| 237、 | 遊欧雑詠 | 井上萬寿蔵 (いのうえ ますぞう) |
| 238、 | 余生 | 良 寛 (りょうかん) |
| 239、 | 芳野懷古 | 藤井竹外 (ふじい ちくがい) |
| 240、 | 芳野 | 河野鉄兜 (こうの てつとう) |
| 241、 | 芳野懷古 | 梁川星巖 (やながわ せいがん) |
| 242、 | 芳野に遊ぶ | 頼 杏坪 (らい きょうへい) |
| 243、 | 夜墨水を下る | 服部南郭 (はっとり なんかく) |
| 244、 | 夜受降城に登って笛を聞く | 李 益 (りえき) |
| 245、 | 芳野に遊ぶ | 菅 茶山 (かんちゃざん) |
| 246、 | 涼州詩 | 王 翰 (おう かん) |
| 247、 | 涼州詩 | 王 之渙 (おう しかん) |
| 248、 | 両英雄 | 徳富蘇峰 (とくとみ そほう) |
| 249、 | 廬山の瀑布を望む | 李 白 (りはく) |
| 250、 | 鹿柴 | 王 維 (おうい) |

短歌

- | | | |
|------|--------|-------|
| 252、 | 山部の赤人 | 田子の浦ゆ |
| 253、 | 石川啄木 | やわらかに |
| 254、 | 若山牧水 | 幾山河 |
| 255、 | 明治天皇御製 | 嵐吹く |
| | | あさみどり |
| 256、 | | さしのぼる |
| | | よもの海 |
| 257、 | | 冬ふかき |
| | 本居宣長 | 敷島の |
| 257、 | 平野國臣 | わが胸の |
| | 若山牧水 | 白鳥は |
| 258、 | | 白玉の |
| | 源の実朝 | 箱根路を |
| 259、 | | 武士の |
| | 吉田松陰 | 身はたとい |
| 261、 | | 親思う |
| | 坂本龍馬 | 世の中の |
| 262、 | 石川啄木 | 東海の |
| | | ふるさとの |
| 263、 | 良 寛 | 子供らと |
| | | 風はずずし |
| 264、 | 斎藤茂吉 | 死に近き |
| | 斎藤弔花 | 山里は |
| 265、 | 今井邦子 | 真木深き |
| | 金田一京助 | 道の辺に |
| 266、 | | 岩手山 |
| | 新渡戸稲造 | 見る人の |
| 267、 | 佐久間象山 | 時にあわば |
| | 岡本かの子 | 多摩川の |
| 268、 | 木村岳風 | わが墓は |
| | 佐々木信綱 | 春ここに |
| 269、 | 山岡鉄舟 | 晴れてよし |
| | 与謝野晶子 | やわ肌の |
| 270、 | 行 基 | ほろほると |
| | 暁鳥 敏 | 十億の |

271、 横山岳精

勝ちし人も
追分の

俳句

274、 芭 蕉

夏草や

275、

古池や

276、

枯枝に

閑かさや

菊の香や

此の道や

荒海や

277、 良 寛

たくほどは

鳴 雪

元旦や

一 茶

われときて

やせ蛙

子 規

柿くえば

278、 蕪 村

菜の花や

春の海

素 堂

目に青葉

其 角

名月や

草田男

降る雪や

279、 虚 子

山里の

千代女

朝顔に

とんぼつり

嵐 雪

梅一輪

岳 精

春ここに

今様

282、 酒はのめのめのむならば

酒は呑むとも呑まるるな

人生僅か五十年

283、 峰の嵐か松風か

浮世の陰のしのぶ草

君が晴着の御姿に

284、今日のよき日のめでたさに

蓬莱山には千とせ経る

花よりあくるみ吉野の

285、春の弥生のあけぼのに

柳桜をこきまぜて

筑紫の野辺に秋たけて

286、鎌倉山の春の宵

身をやく思い静や静

衣の袖はかろけれど

287、緑したたる涼風に

雨もろともに大軍の

無情の風に身をまかせ

以上